

執筆紹介

河野 正 1982年生，東京大学社会科学研究所助教

主著 『タバコ産業の政治経済学—世界的展開と中国の現状』（共著，昭和堂，2021年），「河北省における互助組・農業生産合作社組織過程の諸問題—等価・相互利益および遊休労働力を中心に」（『歴史学研究』第999号，2020年），「中華人民共和国初期，中共機関紙の性格について—『河北日報』を中心に」（『アジア研究』第64巻第1号，2018年）

杜崎 群傑 1981年生，中央大学経済学部准教授

主著 『中国共産党による「人民代表会議」制度の創成と政治過程—権力と正統性をめぐって』（御茶の水書房，2015年），「中華人民共和国の政治制度——創立期，「人民代表会議」制度を中心に（特集：近現代中国における「制度」）」（『現代中国研究』（第46号）2021年3月）

周 俊 1987年生，東京大学社会科学研究所特任研究員

主要論文 「中華人民共和国建国前夜における幹部の南下動員に関する考察：華北地域の農村・都市部の比較から」（『中国研究月報』2019年73巻10号，「中国共産党史研究の史料利用と課題：内部発行の逐次刊行物を中心に」（『中国研究月報』2021年75巻4号，「中国共産党の耳目：新華社の『内部参考』の起源，構造及び機能（1949-1954）」（『アジア研究』2021年67巻3号）

角崎 信也 1981年生，人間文化研究機構総合人間文化研究推進センター研究員

主著 「土地改革と農業集団化—北満の文脈，1946～1951」（『アジア遊学（満洲の戦後—継承・再生・新生の地域史）』第225号（2019年11月），「『大衆路線』と『抗争政治』—『大飢饉』後における農村統治様式の変容，1960～62年」国分良成，小嶋華津子編『現代中国政治外交の原点』慶應義塾大学出版会，2013年，「新兵動員と土地改革—国共内戦期東北解放区を事例として—」（『近きに在りて』第57号（2010年6月）

隋 藝 1986年生，大連海事大学講師

主著 『中国東北における共産党と基層民衆 1945-1951』（創土社 2018年），共著 『城恋郷愁：二十世紀中国的城郷関係史』（社会科学文献出版社，2021年），など

鄭 成 1971年生，早稲田大学社会科学総合学術院准教授

主著 『国共内戦期の中共・ソ連関係—旅順・大連地区を中心に—』（御茶の水書房，2012年），主な論文 「建国初期における青年知識人の社会主義理念への思想転向」（早稲田大学アジア太平洋研究センター，『アジア太平洋討究』40号，2020年11月），「中国の愛国主義教育の有効性への歴史的考察—1956年の上海鉄道局主催の夏令営を手がかりに—」（早稲田大学アジア太平洋研究センター，『アジア太平洋討究』37号，2019年11月）「中ソ文化交流をめぐる中国の青年知識人のプロパガンダ受容—青年S日記を手がかりに—」（早稲田大学アジア太平洋研究センター，『アジア太平洋討究』第36号，2019年3月）など